

## 令和6年4月 「はこでみ親の会」

「第26回はこでみ親の会」を開催しました。

4月は、進級進学の時節であり、はこでみ親の会の皆さんのお子様も新しい生活がスタートしました！

今回も保護者の皆さんから子どもたちの努力や頑張りをたくさん聞かせて頂きました！

例えば、

■ 活動を決められることが大嫌いで「学校は地獄だ」と言っていた子が、「仕方ない。慣れればいいんだよ！」と言うようになりました！

■ 中学校はほぼ不登校ですが、春休み中の部活は行きました！

■ ずっと絶対にしないと決めていた部活動紹介を3年になって担当しました！

■ 中学校は3年間不登校でしたが、高校に入学した今、自分で朝起きて登校しています！

■ 小学校6年間は本当に色々あり親子共々とても大変でしたが、中学校に入学して「心理士になりたい」という夢を持って勉強を頑張っています！

■ 服薬を頑なに拒否していましたが、「調子が悪い自分をどうにかしたい」という子どもの中で困り感が芽生え、服用を再開しました！ 等です。

朝起きて、遅刻せずに登校して、授業を受けて、給食を食べて、試験を受けて、友達と遊び、宿題をして、次の日の準備をして、お風呂に入り、歯を磨き、次の日に備えて寝る。このような1日を当たり前とするならば、上記のエピソードもごく普通の誰にでも当てはまる話に聞こえます。

しかし、

② 子どもがトラブルを起こし、毎日のように学校から保護者に電話がかかってくる。

② 一日中子どもが家にいる。 ② 朝からゲームをしたりユーチューブを見たりしている。

② 「僕はバカだ！」と言いながら自分の頭を叩いている。

② 全く勉強をしていない。

② 困り感が全くなく、「別にどうでもいい」と何事にも無気力。

等の状況が長期間続いたらどうでしょうか？

もちろん、はこでみ親の会の皆さんも最初は当たり前や常識を基準に我が子の状況を不適切と捉え、どうにかしようと親子で衝突を繰り返していました。

しかし、それでは上手くいかない所か、状況はますます悪化していきました。

そこで、はこでみ親の会を通して、保護者の皆さんとたっぷりお話し、大人側の凝り固まった当たり前や常識を取り払うことから始め、我が子の考え方や捉え方を受け入れ、我が子の気持ちやペースに合わせた対応が実践できるように一緒に学んでいきました。

すると、保護者の中に常識や当たり前に関われない子どもの良い所を見つける視点が備わっていきました！

困った時、不安な時、親子喧嘩が絶えない時、心身共に追い詰められている時こそ子どもの良い部分を見つけ肯定的に注目してあげる事が大切です。

